



1. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

・全国的に少子高齢化、人口減少化、核家族化が進む中で、農村地域である大寄地区も同様の傾向が進んでいる。そうした状況で世代間の交流や地域内の交流が減少している。

2. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

【あそびの日（世代間交流・地域内交流）】

「あそびの日」事業の運営主体となるレクリエーション指導者協議会や大寄小学校子ども会と打合せを密に行い、誰もが参加できる昔ながらのあそびや、新しいあそびを取り入れ、世代間の交流が図れるようにした。また、大寄地域全体を巻き込むため、地域内の自治会会長会議でも周知し、運営にも協力してもらった。子どもの親や祖父母にも来てもらえるよう、参加賞を配り、子どもたちの参加を促した。ドッジビーでは、公民館で子どもたちのチーム分けを行い、トーナメント形式で実施した。最初はお互いが知らない者同士だったが、その種目に真剣に取り組み仲間と協力することで、子ども同士の交流が深いものとなる。大人にとっても知らない親同士が一緒になりチームを応援することで新たな交流が図れる。昔からのあそびでは、年配者が子どもに遊び方を教えたり、アドバイスを送るなどして世代間の交流が図られる。なお、あそびの種目がマンネリ化しないよう、毎年少しずつ変えている。

【地区体育祭（世代間交流・地域内交流）】

他の事業としてこれまで単独で実施していた地区の体育祭を小学校の運動会と合同で実施する。このことにより小学生から高齢者までと一緒に地元の伝統芸能を踊ったり、それぞれの競技で声援を送り合うことで世代間の交流や地域内全体の交流が図れる。



受付をする自治会役員



種目の担当をする子ども会役員

3. 取組による成果や効果

- ・あそびの日を開催することにより、参加する子どもや大人、高齢者は様々なあそびを通して世代間を超えた交流を持つことができる。
- ・公民館職員だけでは事業の実施は難しいが、子ども会や自治会、レクリエーション指導者協議会などと一緒にやる事で様々なあそびを体験させることができる。
- ・子ども会役員、PTA役員と地域住民との交流も図れる。



世代を超えた交流

4. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

- ・公民館運営審議会を開催し、実施した内容や効果について検証を行う。
- ・レクリエーション指導者協議会や子ども会との打合せを早めに行い、余裕をもったスケジュールで計画を立てる。

5. 公民館として大切にしていること、大切にしている考え

- ・公民館は単なる貸館施設ではなく、地域住民の憩いの場、地域住民と行政を取り持つ場所となっていることから、いかに地域住民に気軽に来館してもらえるかを常日頃から考えながら取り組んでいる。



お月見コンサート

6. これから公民館をどのようにしていきたいか。次の仕掛けやビジョンなど。

人口減少が続く中、また新型コロナウイルスの影響で3年間事業ができなかったことで、これまで実施してきた事業の実施が難しく、地域のコミュニティ作りにも影響が出ている。アフターコロナにおける新たなニーズを探り、地元自治会や関係団体と情報共有を図りながら、事業の展開を考えていきたい。



趣味の作品展